

赤ちゃんの家さくらんぼ

平成 25 年度事業報告

1、基本方針

<こんな乳児院をめざします>

- ① 子どもたちに「もうひとつのあったかいお家」となる乳児院づくりをすすめます。
 - ・ 小規模グループケアハウス『ももの家』が完成し、家庭的な環境の中で小グループ養育を始めた。子どもたちが、好きなおもちゃを選んで主体的に遊び、心地よく眠り、自ら排泄に行くなど生きいきと生活する姿が出てきた。また、小グループの子どもたち同士の関わりが深まり『ももの家』で楽しく家庭的体験を積み重ねた。
 - ・ 本体施設においても小グループ単位で生活することが多くなり、落ち着いた環境で子どもたちに寄り添った養育を深めた。
 - ・ 畑ができたことで、野菜の育ちを見たり水やりをしたり、収穫してクッキングするなど、1年を通して食物と関わり、食育に繋がった。
 - ・ 行事計画書に基づき、担当保育士と小グループで外出をし、お店に行き自分で選んだお菓子を買って公園で食べるなどお買い物外出をぶどう組クラス全体で行った。
 - ② 保護者とともに子どもを育てます。
 - ・ 誕生会や夏祭りやクリスマス会など参加を呼びかけて来院の機会を増やして子どもたちの姿を見てもらい、保護者と共に元気な成長を喜び共感した。
 - ・ さくらんぼ便りを毎月発行し、子どもたちの生活の様子を成長の姿の写真と共に、担当保育士からの言葉を添えて郵送し、子どもたちと保護者の繋がりを絶やさないようにした。
 - ・ 引き取りに向けて家庭訪問して生活環境を見ながら、育児の不安や悩みに応えたり、今後の子育て支援体制を確認した。また、離乳食作り実習をして赤ちゃんの育ちに合った離乳食を知らせた。
 - ③ 職員が生きいきと働き続けられる乳児院をめざします。
 - ・ 「好ましい人間関係を育てる」をテーマに人とのコミュニケーション力を育てる研修をし、年間を通して職員同士のより良い関係づくりに繋がるようにすすめた。
 - ④ 地域に根ざした子育て支援センターをめざします。
 - ・ 4月より里親支援専門相談員を配置し、担当地域の里親サロンに参加したり、里親宅へ家庭訪問するなど、子育て支援活動を広めた。
- ### 2、専門分野別の組織作りと役割を明確化し稼働させる
- ① 保育 新任職員の相談役職員を明確にして振り返りの時間を設定し、組織的に新任研修体制作りを行った。

毎月の小規模グループケア推進会議で、さくらんぼで行う家庭的養育内容を論議し、実践に繋がれた。
 - ② 看護 子どもたち一人ひとりの健康状態を把握し共通認識に努め、さくらんぼ全体で子どもたちの健康管理に心がけ、病気感染を最小限にとどめることができた。
 - ③ 食育 職員全体で食べ方講習会を行い、子どもたちの発達にあった食事指導を確認した。

給食会議では、調理員と各分野の主任とクラス代表者が集まり、子どもたちの発達様子を意見交換しながら、心と体の成長をめざして食育実践した。

- ④ 事務 小規模グループケアハウス『ももの家』が子どもたちにとって家庭的環境となるように備品を整えた。

子どもたちの通院や外出するための公用車の購入計画をすすめる。

3、各係の仕事を明確にし、遂行する。

<写真> さくらんぼ便りに間に合うように毎月、写真を出すことができた。また、子どもたちのアルバム用の写真を提供できるように、保存し整理に努めた。

<被服> 係の職員が協力し合い、子どもの体にあった衣類を購入したり、季節の衣類の出し入れや整理整頓を行うことができた。

<日用品・ミルク> 在庫管理の棚を設置し、ミルクや日用品の発注・納品がスムーズにできた。

<オムツ> 計画的な発注、在庫管理に心がけ、子どもたちに合ったオムツの補充ができた。また、防災用オムツの総入れ替えを行った。

<製作> 毎月の歌を壁面に貼って歌を伝えたり、子どもたちが楽しく作成したものを室内に飾り、子どもたちの生活が楽しくなるように繋げた。

<行事> 誕生会の係は年間計画に添い、行事計画書を提出して計画的にできた。また、ぶどう組は、子どもたちの成長に合わせて遠足や、お出かけの計画を立て子どもたちひとり一人が楽しめる取組みとなった。

<夏祭り> キルシェハイムとの合同夏祭りは、実行委員長を中心に役割分担して職員全体で協力し、積極的に取り組めた。

<文集(朋)> 愛知県下の他施設とともに、文集「朋」作りに積極的に取り組んだ。

4、各種会議の充実を図り、決定事項の徹底化

職員会議や学習会では、課題に応じてグループ討議の時間を設定し、主体的に意見を出し合うように取り組んだ。会議の議事録を全職員が通読し、行事や取組み養育内容などの決定事項を確認した。

5、家庭支援専門相談員の配置

児相と家庭状況や面接の様子など情報を共有し、支援方針を確認しながら取り組んだ。毎月ケース会議を実施し、担当保育士と主任会メンバーで子どもたちの現状を確認し、対応や支援方法を検証し修正した。その上で児相と連携して面談、家庭訪問、施設見学など行い、家族の思いを確認しながら措置変更先へ繋げていった。

6、里親支援専門相談員の配置

里親支援ガイドライン等により、里親推進活動をする中で施設職員として養育支援の専門性を生かしたアドバイスやサポートを行った。里親サロンや里親関連研修の参加、里親家庭訪問などで里親の立場、状況、悩みを聞き、里子との関係性を観察してアドバイスを行った。また、子育ての不安に応じて具体的な関わり方や離乳食の進め方など乳児養育の知識を広め、施設と里親が良い関係で繋がるように活動した。

7、職員の資質向上および力量を高める

- ① 第三者評価(審査機関:愛知県社会福祉協議会福祉サービス第三者評価事業所)に取り組み、さくらんぼで取り組んできた養育を自己評価し、第三者からの意見を聞いた。
- ② さくらんぼ全体で新人研修に取り組んだ。
- ③ 50周年記念に向けて基本理念を話題にして会議に臨んだ。

④ 各種研修に積極的に参加した。

県施設長会主催の研修や、外部研修に積極的に参加した。院内研修では、さくらんぼが大切にしている養育の基本を共通認識となるように、テーマに沿って学習をした。

⑤ 自己評価チェックを取り入れる

自己評価チェックを10月に実施し、フィードバックを全職員に行い次年度計画に繋げた。

8、施設設備整備について

- ・小規模グループケアハウス『ももの家』建設。

これにともない小規模のための備品などを購入。

- ・駐車場の安全確保のため、ソーラー式のLEDライト&防犯カメラ設置
- ・子どもたちの通院、外出のためのワゴン車購入
- ・防災備品のための倉庫設置

9、資金の計画

通常経費は、措置費収入及び補助金で賄った。運営費補助金（福祉ポイント加算）は3.5ポイントとなった。

子育て短期支援事業は犬山市、一宮市と契約を継続した。